

日本人の面白い名前

日本加除出版(株)代表取締役会長・東京上野 RC 尾中 哲夫様

日本の苗字の歴史では、昔はほとんどの方が苗字を持っていませんでした。苗字を持っていたのは、主に武士や公家のような限られた人たちでした。昔から苗字の4つの代表は、平家の「平」、源氏の「源」、「藤原」、「橘」が最古の苗字だと聞いています。その中で橘家の創始者は元明天皇の時に女子に与えられた橘宿禰（たちばなのすくね）が最初です。大体、この4つの系統から日本の苗字は始まっています。

ご存知の通り、お公家さんは京都ですので、住所、通り道の名前がついています。一条さん、二条さん、三条さん、綾小路さん、烏丸さんなどのように、住んでいる所の名前があります。一般の市民は、とらさん、八っさん、くまさんのような世界でした。

明治維新になり、戸籍を作ろうではないかということになりました。戸籍の起源は、日本書紀によれば、朱徳天皇の12年前、大化の改新以降、嵯峨天皇の御代、西暦650年頃だと記されていますが、江戸の頃までは消えておりました。明治3年9月19日に太政官布告で「今後、平民も苗字を名乗っても良い」というお触れが出されました。江戸時代に豪商が苗字を貰いたいために、江戸幕府に大金を寄付し、苗字、帯刀を許されました。庶民は同じように名前を貰うには大変なお金がかかると思い、誰も付けませんでした。明治4年に戸籍制度を作ることになり、明治5年、戸籍制度（壬申戸籍）が、その年の干支に因んで名付けられました。それでも苗字を付ける人が少ないため、明治8年、太政官布告で、必ず苗字を付けなければ罰金を取るとなり、あわてた庶民は、名主や僧侶、神官などの知識人の所へ行き、苗字を付けてもらいました。「おまえは田んぼの中に住んでいるから田中でいいんじゃないか。」「大きな松の下に住んでいるから、松下にしろ。」このような簡単な名前が付けられました。その中でも、農機具の名前を付けられたのが、一尺八寸の鎌の柄で、「かまえさん」、「かまつかさん」になり、色で付けられたのが、「白旗さん」「赤旗さん」「黒竹さん」「青竹さん」「黄海さん」。季節で付けられたのが、「秋庭さん」「春野さん」「夏目さん」「冬野さん」「夏秋（なかば）さん」「春夏秋冬（ひととせ）さん」などがあります。と都道府県に関するものでないものは、東京さん、新潟さん、沖縄さん、県庁所在地では札幌さん、甲府さんの苗字はないそうです。

日本の苗字は何種類くらい戸籍に登録されているかご存知でしょうか。「難読稀姓辞典」の著者は、元法務省法務局にお務めになっていましたが、全国を歩いて

各市町村の謄本から調たので、ここに載っている面白い名前は本当の苗字です。日本には約13万姓があると仰っていましたが、先日テレビで、ある先生は20万姓があると仰っていました。